


# 会長賞 お茶の町の「和」の家

かごしま  
木造住宅  
コンテスト  
2019



建主の希望は、祖父母が住んでいる昔ながらの「和の家」でした。50・60年後に、孫、ひ孫にこれが「平成のかごしま和の家」だと自信を持って言える家、家族と共に年を重ね、共に変化してゆく木造りの家の良さを感じながら、末永く安心して暮らせる家づくりでした。その希望に沿い、真壁造りなど「和」の意匠を表現し、木の表情を生かしたプランとなっています。木をたくさん使うことで、意匠がくどくなりがちですが、白の壁と木の表情を絶妙なバランスで配置し「和」を感じながらもスッキリとした現代的な空間とし、耐震・断熱にも考慮したまさに「かごしま木造住宅を代表する平成の和の家」となっています。

大きな断面の柱、梁と化粧垂木と化粧野地板に囲まれた開放的な勾配天井のLDK  
家の中心に位置するLDKからは家族の気配が常に感じられます

受賞の  
コメント



設計 / 株式会社 建築工房 匠  
福迫 健さん

良質の木材を使用し、大径の柱・梁、化粧垂木、化粧野地板等「和」を代表する意匠を保ちつつ、お施主様の費用負担を少なくするよう木材は丸太から購入し、化粧材を拾い出し使い回し可能大きさに統一、製材加工するなど工夫をし、かつ耐震・断熱性も性能に優れた長期優良住宅（耐震等級3・BELS評価UA値0.59）に対応した「かごしま木造住宅を代表する平成の家」を提案しました



家の中心は笑顔が集まるLDK



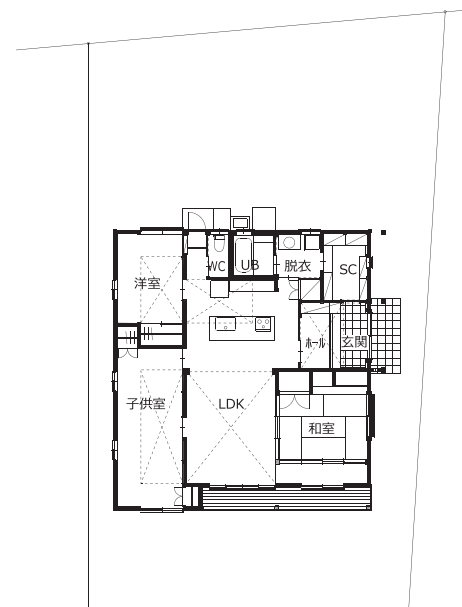
シューズクロークとつながった洗面所

## 大きな大黒柱に守られた、安心・安全・快適な住まい

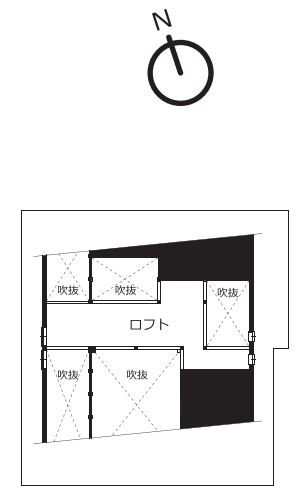
建主と設計者をつなげたのは一軒の木造住宅でした。建主が住宅の購入を検討していた際、偶然見つけた木造住宅。その住宅に一目ぼれをした建主は、設計者を探し「和」の家の設計を依頼、プランも設計者におまかせしたそうです。家庭菜園の好きなご主人、子供たちが庭で遊んで汚れても、玄関から洗面所に直交できる間取りであったり、卓越風・奥行きのある軒・昼光利用・断熱を意識した家づくりで夏涼しく冬も暖房がいらなくらい暖かい快適な住空間。何よりもお気に入り、大きな断面の柱、梁に守られたLDK。寝転がれば開放感のある木に囲まれた空間が大好きとのこと。親戚、友人を招けば羨まれる住空間に大変満足と笑顔で話されました。



30cm角の大黒柱は抱えるほどお大きい



1階平面配置図 S=1:300



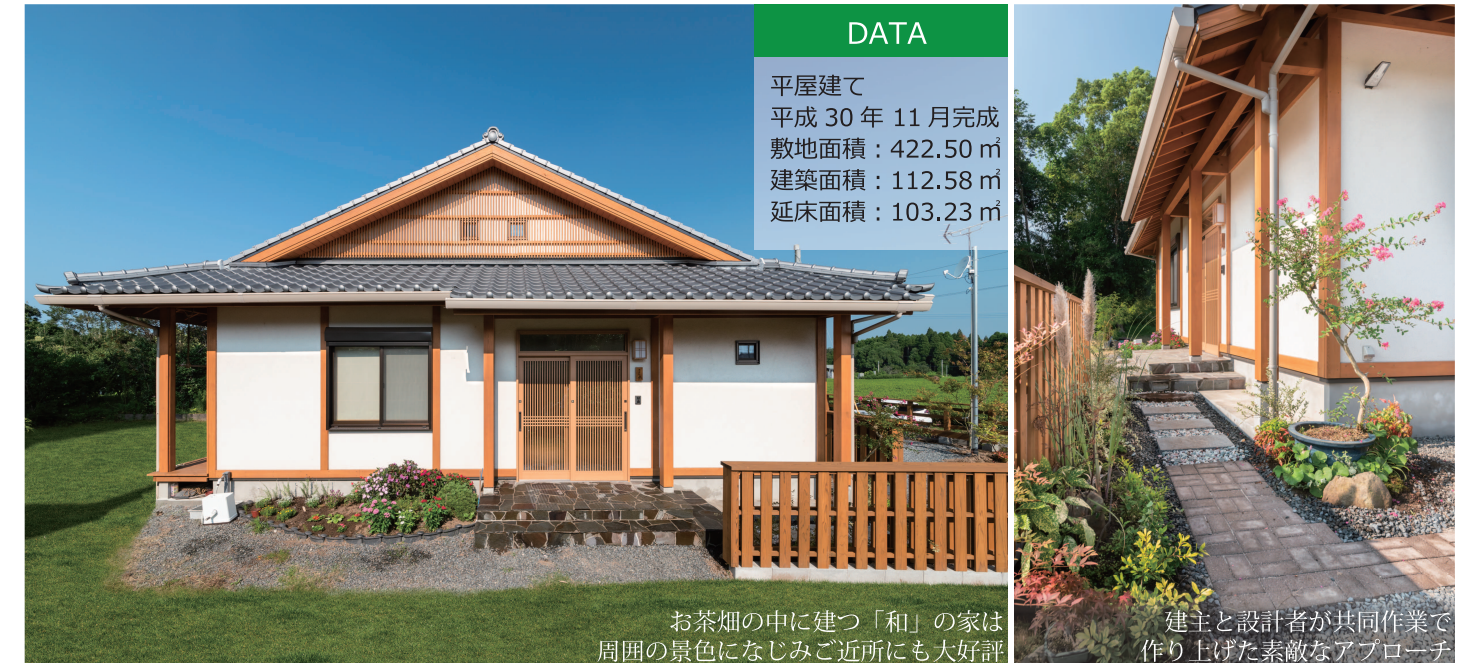
小屋平面図 S=1:300



天窓からの光が差し込みで明るいキッチン



落ち着いた空間を創出する深い軒の縁側



**DATA**  
平屋建て  
平成 30 年 11 月完成  
敷地面積：422.50 m<sup>2</sup>  
建築面積：112.58 m<sup>2</sup>  
延床面積：103.23 m<sup>2</sup>

お茶畑の中に建つ「和」の家は周囲の景色になじみ近所にも大好評

建主と設計者が共同作業で作上げた素敵なアプローチ

募集条件への適合状況					
かごしま木の家の基準		認証かごしま材の家の基準			
「かごしま材の使用量が10㎡以上」かつ「かごしま材の使用量の割合が全体の50%以上かつ構造材の50%以上」	○	(1) 柱・半柱・間柱が、当該部材の体積比で80%以上	○	(3) 造作材、下地材及びフローリングの合計面積が16㎡以上	○
		(2) 柱・梁・桁などの構造材が、住宅の延べ面積に0.023㎡/㎡を乗じて得た数値以上	○	(4) 上記(1) (2)のいずれかにおける認証かごしま材の実使用比と(3)における同材の実使用比の数値の合計が1以上	○